

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105073
法人名	有限会社 いろり
事業所名	グループホーム いろりの家
訪問調査日	平成21年3月23日
評価確定日	平成21年4月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670105073
法人名	有限会社 いろり
事業所名	グループホーム いろりの家
所在地	鹿児島市 坂之上 6丁目20-30 (電話) 099-262-4647
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 21年 3月 23日

## 【情報提供票より】(平成21年3月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

### (4) 利用者の概要(3月 3日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	6 名		
年齢	平均 81 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三宅病院 古川胃腸科CL ゆのうえCL 上妻歯科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市南部の住宅街に、デイサービスと宅老所を併設して建てられたホームである。「地域の高齢者の集う場所」を目指し、運営者、管理者、職員が一丸となって熱心に取り組んでいる。花見に近くの家を訪問したり、近所から野菜をいただくなど、徐々に運営者の目指すホームの姿に近づいているが、大学周辺ということもあって学生が入居するアパートが多く、地域とのコミュニケーションをいかに図っていくかが今後の課題といえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題の内、「地域密着型サービスとしての理念」や「重度化や終末期に向けた方針の共有」など5項目に関しては改善が図られているが、「評価の意義の理解と活用」「運営推進会議を活かした取り組み」「市町村との連携」など、運営管理面の3項目については引き続き改善に向けた取り組みが望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員が記入したものを管理者及び運営者がまとめている。それぞれの項目については、職員全員で協議する機会はなく、評価の意義についての理解も十分とは言えない。評価の有効活用について、さらに検討していただきたい。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>原則として2ヶ月毎に会議を開催するなど、前回の指摘を受けて改善している。しかし、町内会長・老人会長・民生委員等、地域の方々の参加はあるものの、夜間の開催ということもありご家族の参加が少なく、地域包括支援センター職員や市の担当者は今のところ出席していない。より多くの構成メンバーが出席できるような会議のあり方について、今一度検討することが望まれる。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>頻繁にホームを訪れるご家族も多く、その都度職員や管理者、運営者と話をする機会を持ち、意見や要望等を聞き取るように心がけている。また、家族会を開催した際に、ご家族だけで話し合う時間を設け、気兼ねすることなく意見を出せるような配慮も行い、運営に反映している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>職員と入居者が一緒になって、地域のふるさと祭りや清掃活動に積極的に参加している。また、近所の人に花を見に出かけたり、ホーム主催の敬老会に近隣の方々が参加されるなど、日頃から地元の人々との交流に努めている。</p>

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直して、地域密着型サービスとしての独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および職員が、ホームのモットーである「ゆっくり楽しく一緒に」を常に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。また、毎月のミーティングや日々のケアにおいて、理念が実践されているかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員と入居者が一緒になって、地域のふるさと祭りや清掃活動に積極的に参加している。また、近所の家に花を見に出かけたり、ホーム主催の敬老会に近隣の方々が参加されるなど、日頃から地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について全員で学習するなど、前回評価における指摘事項に対し具体的な改善の取り組みを行っている。今回の自己評価は職員が記入したものを管理者及び運営者がまとめている。それぞれの項目について全員で協議する機会はなく、評価の意義について職員の理解もまだ十分とは言えない。	○	評価の意義について更に理解を深めるとともに、外部評価における指摘事項のみならず、自己評価における職員の気付きについても、必要なものは全員で話し合い、改善に向けた取り組みを行うなど、評価の有効活用について、さらに検討していただきたい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則として2ヶ月毎に会議を開催するなど、前回の指摘を受けて改善している。しかし、町内会長・老人会長・民生委員等、地域の方々の参加はあるものの、夜間の開催ということもありご家族の参加が少なく、地域包括支援センター職員や市の担当者は今のところ出席していない。	○	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。より多くの構成メンバーが出席できるような会議のあり方について、今一度検討することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新手続きや相談等のために、運営者や管理者が介護保険課を訪れたり、介護相談員の受入は実施しているが、運営推進会議を含めて、地域包括支援センター職員や市担当者がホームを訪れることはほとんどなく、ともにサービスの質向上に取り組んでいるとは言いがたい。	○	ホーム側からの相談や報告にとどまることなく、地域包括支援センターや市職員がホームを訪れ、直にホームの様子を見てもらうことで情報を共有し、ともにサービスの質向上に取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者のコメントをそれぞれに記入したお便りを、毎月作成して送付している。その他、ご家族の面会の都度、日頃の暮らしぶりや健康状態を伝えている。金銭管理については出納帳に記録し、面会の際に確認してもらいサインをいただいたり、遠方のご家族に対しては出納長の写しを送るなどして報告している。		金銭出納帳の内容がややわかりづらいため、後日のトラブルを回避する意味合いからも、ご家族の意見も伺いながら書式や方法を再検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁にホームを訪れるご家族も多く、その都度職員や管理者、運営者と話をする機会を持ち、意見や要望等を聞き取るように心がけている。また、家族会を開催した際に、ご家族だけで話し合う時間を設け、気兼ねすることなく意見を出せるような配慮も行い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けることの重要性を十分に認識しており、離職を必要最小限に抑えるために、職員との信頼関係を築くように常に話を聞く努力をしている。その結果、離職はほとんど無く安定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区のグループホームが集まって開催される勉強会に、職員が交代で参加している。また、毎月の職員会議において、外部研修に参加した職員による伝達講習やホーム独自の勉強会を実施しているが、研修計画は作成していない。	○	年間研修計画とともに、職員の経験や業務の習熟度に応じて、段階的に育成するための計画を策定していただきたい。加えて、それらを職員に示すことで、働きながら学ぶことの意識付けを行い、職員を育てる取り組みがより効果的なものになることを期待したい
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホームの勉強会に管理者や職員が交代で出席し情報を交換したり、お互いのホームを見学するなどしてサービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する本人およびご家族に、事前にホームを見学していただき、安心して納得した上でサービスを開始するようにしている。本人が事前にホームを訪れることが出来ない場合は、運営者や管理者が面会に出向くなど、馴染みの関係を築くように配慮している。併設のデイサービスや宅老所の利用者が入居に至るケースもあり、馴染みながらのサービス利用を実践している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	エンドウ豆の筋取りやモヤシの根切り、配膳や片付けなど、出来る範囲で入居者にも手伝ってもらい職員とともに過ごし支え合う関係を築いている。職員は、傾聴や受容に心がけることで喜怒哀楽を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に寄り添い、傾聴や受容を心がけることでそれぞれの思いや暮らし方の希望を把握している。把握が困難な場合は、面会に来られるご家族から以前の暮らしぶりや様子を伺い、本人の思いや希望を推し量りながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に入居者およびご家族から情報を得て、必要な場合はご家族を交えての会議を開いて介護計画を作成している。また、職員は毎月のミーティングで担当する入居者についての報告を行い、それぞれ意見を出し合いながら本人本位の介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に定期的な介護計画の見直しを行うとともに、日々の入居者の様子を経過記録に記入しており、職員の気づきを計画の見直しに活かしている。入居者の状況によっては、医師の参加を得て担当者会議を開き、現状に応じた介護計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて、外出や外来受診の支援を行うなど、柔軟に対応している。また、併設しているデイサービスや宅老所とも連携しながら、法人全体として多機能的な支援を実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者およびご家族が希望するかかりつけ医を継続して利用できるように、定期的な外来受診や必要な往診、訪問看護等を、関係者と協力しながら対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関わる指針」を作成し、入居者本人やご家族並びにかかりつけ医と必要に応じて話し合い方針を共有している。職員間においても、毎月のミーティングで方針を共有し対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時の対応や入浴の支援など、一人ひとりのプライバシーに配慮した支援を行っている。個人情報に関わる個人ファイル等についても、事務室にて適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やホームの決まりごとを優先することなく、ゆっくりと本人のペースで起床して10時のお茶の時間に食事をする方が居られたり、希望によって散歩や買い物に出かけるなど、それぞれの希望やペースに配慮した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや配膳など出来ることを一緒に行いながら、初物の食材について話したり、栄養バランスに配慮した手作りの料理を心がけるなど、毎日の食事が楽しみなものになるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に一日置きに対応となっているが、希望すれば毎日でも入浴が出来る。入浴前にはバイタルチェックを行い、体調や気分を考慮して入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや配膳、お盆拭き、モップ掛けなど、出来ることは積極的にやっていただき、張り合いのある暮らしを支えている。また、チリ箱作りや大正琴の演奏など、それぞれの楽しみごとを支援しており、絵を描くことが好きな方のために、廊下の壁に「○○美術館」と称して作品を展示するなどの取り組みも行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望によって、できるだけ担当の職員と散歩や買物、ドライブなどに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけていない。管理者や職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、絶えず目配りと気配りを心がけることで入居者の動向把握に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所に消防団の分団長が住んで居られ、協力を得て夜間を想定した避難訓練を実施している。併設の宅老所と連携して、災害時の備蓄も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事および水分摂取量について、チェック表により適切に把握している。職員が調理の研修会に参加するなど、栄養バランスにも配慮した食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、不都合を感じている部分もあるが、テレビの位置を変えたり季節の花や飾りつけを施すなどして、入居者が居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台、ベッド、押入れが備え付けてある。テレビや整理ダンス、位牌等、入居者が使い慣れたものや馴染みのものが数多く持ち込まれており、居心地よく過ごせるように配慮されている。		